ユネスコ群馬 No.83

Unesco Gunma

群馬県ユネスコ連絡協議会 ／ https://gunma-unesco.com　　会長　岸 正博 ／ 群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心　広げようユネスコの輪

年頭のご挨拶

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長　　岸　正博

明けましておめでとうございます。

今年こそ、と思いを新たに平和な世界の実現にと強く思わざるを得ない国際情勢です。国連の機能不全状況と世界の分断という現実。紛争(戦争)と対立、顕在化する環境問題、グローバル化と自国主義など、社会の環境変化が立ちふさがります。成長し続け、安全で安心して暮らせる社会は実現できるのか、という持続可能性が試される時代にいま私たちは生きています。

世界の様々な現実を理解したうえで、自分は何ができるのかが問われているといってよいでしょう。そこに世界の共通の約束として、持続可能な開発目標(SDGs)が設定され、2030年達成を目指した17の目標が作られました。

県内では、SDGs達成に向けた取り組みを提案する都市「 SDGs未来都市」に、みなかみ町が2019年度に、群馬県が2021年度に内閣府から選定されています。学校教育では、持続可能な開発のための教育(ESD)の実践推進として「ユネスコスクール」の加盟・活動を進め、現在、群馬県では、認定校、ユネスコ本部へ申請中の学校を含め、36校が積極的に取り組んでいます。

ESD/SDGsは、縦割りでない統合的な取組が求められます。いまこそ社会教育、学校教育が連携し、ESD/SDGsのさらなる推進を具体的に行っていく年にしたいと願っています。

新年のごあいさつ

群馬県教育委員会

教育長　　平田　郁美

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましては、日ごろからユネスコ憲章の精神に基づき、平和と人々の共通の福祉を促進するため、様々な活動に取り組まれていることに、心から敬意を表します。

さて、県では、第3期群馬県教育振興基本計画において、誰もが互いに多様性を認め合い、共に支え合う社会をつくることを柱の一つとしております。

また、STEAM教育において、SDGsの課題などにも積極的に取り組み、Society5.0時代を生きるために必要な資質・能力を身に付け、自らの頭で未来を考え、動きだす力を持つ「始動人」の育成をすすめて参りたいと考えております。

群馬県ユネスコ連絡協議会の活動方針には、「ESD/SDGsの推進」「文化多様性の保護・促進」などがありますが、地域や世界の状況を知り、SDGsについて考えたり、自他の文化の違いに触れたりすることは、子どもたちにとっても未来や共生について考えることができる貴重な機会であるとともに、大変意義のある取組であると考えており、深く共感しております。

結びに、新しい年が明るい未来につながる希望の一年となりますとともに、群馬県ユネスコ連絡協議会の御発展をお祈り申し上げ、新年の御挨拶とさせていただきます。

県ユ連主催事業

海外青年交歓研修会

太田ユネスコ協会会長　中村　利光

2022年9月17日(土)、本協会が主管となり太田市社会教育総合センターを会場に、57名の参加を得て海外青年交歓研修会を開催しました。

ご来賓の恩田由之教育長様より、市教委よる外国人子女教育施策の紹介や研修会で文化共有が深まることへの期待など、ご祝辞をいただきました。

その後、太田市役所の桑原隆行国際課長補佐様より外国人住民の現状や多文化共生の施策について、「多文化共生推進に向けた取組み」を演題に講話がありました。情報の多言語化・日本語学習支援・防災対応など、資料を基に外国人住民への生活支援の様子を具体的に理解することができました。

引き続き、関東学園大学学生のアセラ・バンダラ様(スリランカ)、太田日本語教室あゆみの会受講者のフィナ・ニルマラ様(インドネシア)、太田市立城東中学校英語指導助手のラメル・マリナオ様(フィリピン)、太田市立九合小学校バイリンガル教員の坂本裕美様(ブラジル)の協力を得て、体験スピーチやパネルディスカッションが行われました。4名の海外青年の方々から、来日の目的・大学や職場での取組み・国内生活での感想・母国の状況など、多面的な情報提供がありました。

慣れない中で友達ができ一緒に学んだり食事したりする楽しさ、不況の中で経験した失業と就職の難しさ、医療や生活で感じた言語の壁と差別の経験、教育指導で味わった喜びと無力感など、それぞれの立場で体験した発表がありました。また、困っていると声をかけ助けてくれる日本人のよさを失ってほしくないこと、言語の壁が取り除かれ互いに歩み寄れる社会になってほしいこと、オリンピックを機に日本の国際化が一段と進み生活しやすくなったことなど、様々な話を聞くこともできました。

研修を通じ海外から見た日本の現状を再確認し、ユネスコ活動を推進するよい機会となりました。

▲海外青年交歓研修会

世界遺産研修会 in 伊勢崎

伊勢崎ユネスコ協会会長　設楽　孝吉

10年前の平成24年11月、伊勢崎ユネスコ協会が主管となり、「ユネスコ世界遺産学習会」を開催し、田島弥平旧宅等の見学を行いました。そして、10年後の令和4年10月1日(土)、再び当協会が主管となり、「令和4年度世界遺産研修会 in 伊勢崎」を開催しました。研修会は、伊勢崎市境島村地区にある田島弥平旧宅及び周辺の蚕種製造民家についての座学と見学の二本立てとしました。

前半は、境島村公民館を会場に、「島村は利根川の賜物(たまもの)」という演題で、境島村登録文化財活用推進協議会長の田島達行氏に講演いただきました。平成26年、関係者の努力が実り、田島弥平旧宅はユネスコ世界文化遺産に登録され、多くの人が訪れる場所になりました。しかし、田島氏は講演の中で、「建物は『登録』することで存続し、『活用』することで生きる」という持論を展開され、田島弥平旧宅だけでなく、国登録有形文化財に登録されている周辺の民家も多くの人に知っていただき、境島村地区全体を発展させたいとおっしゃっていました。ユネスコ世界文化遺産に登録されたから全て良し、ではなく、田島氏は境島村地区の今後を見据えておられました。

▲開会行事　岸正博会長の挨拶

後半は、旧境島小学校の校庭を出発し、田島氏の説明を聞きながら、蚕種製造民家の見学を行いました。10月に入ったとは言え、日差しが強く、暑さが厳しい中での見学となりました。今回は、田島氏の計らいで、蚕種製造民家の2階蚕室を見学させていただいたり、更に屋根上の「やぐら」にも登らせていただいたりと、貴重な経験ができたと感じています。

コロナの影響で令和3年度に中止となった本研修会を、今年度予定通り実施することができました。関係各位に厚く感謝申し上げます。

▲蚕種製造民家の見学

持続可能なユネスコ活動の運営の在り方を学ぶ

運営研修会兼事務局員研修会 in 高崎

高崎ユネスコ協会会長　串田　昭光

令和4年11月5日(土)秋晴れの日、高崎市保渡田にある県立土屋文明記念文学館で約40名の参加で実施されました。市長あいさつ(山田史仁高崎市市民部長)では、現在のユネスコ活動の最前線の話が聞けることを期待しているとの内容でした。

研修会の内容は、講演と各ユネスコ協会からのアンケート調査結果の報告、会食をはさみ、土屋文明記念文学館の視察研修の3本立てでした。

講演講師は日本ユネスコ協会連盟参与・元事務局長の川上千春さんで、演題は「Peace for Tomorrow広げよう平和の心～SDGs(持続可能な開発目標)に向けた民間ユネスコ運動とは～」でした。日本のユネスコ加盟は国連加盟より前であり、平和構築の鍵は人であること、世界寺子屋運動について、また、ユニセフは基金集め、ユネスコは活動と現場があることについて明確に違うなど、聞くことができました。群馬のユネスコは支部ごとにホームページがあり、素晴らしいと褒めていただきました。ただ、一般へのアピール不足が残念とのことです。

アンケート調査では会員、補助金、事業内容、組織などについて報告がありました。大きな成果として、SDGsの普及や啓発が大いに進んだこと、世界寺子屋運動「書きそんじハガキ・キャンペーン」の推進、各ユ協独自に継続している活動があげられました。課題としては、会員減と会員の高齢化による組織の弱体化による事業継続などの不安についてでした。

これからの展望については、日ユ協連との連携強化、県ユ連事業の精選、一般の人へのユネスコ活動の周知、他団体との連携など、いずれの項目も会員がそれぞれ日常的に感じていることではありました。

文学館の見学では、学芸員さんの案内で約1時間、土屋文明について学ばせていただき、群馬県の偉大な歌人・国文学者について再認識しました。

▲講師　川上千春氏

「第78回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津～オーガニックシティ木更津からの発信～」兼「関東ブロックユネスコ活動研究会・千葉県ユネスコ大会」に参加して

県ユ連事務局長　依田　治雄

2022年11月26日(土)、木更津市のかずさアカデミアホールで開催され、群馬県からも各ユ協から2～4名が参加しました。会場は駅から遠いなど、交通の便が悪く、たいへんな思いで参加しました。

オープニングでは、かずさジュニアオーケストラの演奏と木更津市立木更津第一小学校児童の「證誠寺の狸ばやし」のダンスで幕を開けました。

開会式は日本ユネスコ協会連盟会長佐藤美樹氏のあいさつ、続いて運営委員長君塚博氏、来賓は外務副報道官岡野結城子氏、文部科学省国際統括官岡村直子氏、防衛大臣浜田靖一氏は代理出席、知事欠席、木更津市長渡辺芳邦氏らのあいさつがありました。

記念講演は「明日に向かって生きる」という演題で俳優の宇梶剛士氏が行いました。母親がアイヌ民族で、人権運動、女性の地位の向上に力を尽くし、家庭はあまり顧みずたいへんだったこと。自分はプロ野球選手を夢見るも挫折、暴走族にも入り、少年院にも入って苦労をしたことなど、俳優になるまでの人生を話されました。

実践発表では、木更津市立清見台小学校の児童が「共生社会実現を目指した取り組み」というテーマで、パラリンピック選手との交流をとおして自分たちと変わりないという感じを持ち、住みよい社会へ向けて発信していく内容でした。

2例目は「日本での活動について」というテーマで、外国語指導助手のキャサリン・ジュンゲ氏の発表でした。ケニアから日本にきて感じたいろいろな思い、和の精神、尊敬の言葉、心を開くこと、また国が違っても言葉をとおして理解しあえるなど発表しました。氏は全日本大学女子駅伝に出場したほどの陸上選手です。

パネルディスカッションではテーマを、「誰一人とり残さない平和で持続可能な未来を目指して～オーガニックシティ木更津からの発信～」とし、木更津市長の発表では先進的な木更津市の取組がよく理解できました。パネリストの保育園長と若い農業経営者は、子育ての秘訣、環境を大切にする農業などそれぞれ素晴らしい発表で、市長を頂点とする木更津市の一体化された様子がうかがえ、うらやましくも思いました。

閉会後、オークラアカデミアパークホテルに場所を移し、懇親会が開催されました。太鼓や民謡の発表もあり、コロナ下ではありましたが、にぎやかな懇親会となりました。

各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

継続は力なり

会長　田中　一枝

桐生ユネスコの会長を継承してから1年半になりますが、その間、20名未満の会員から一挙に1年で71名に増員となったことで最も危惧されたのはその会員たちが飽きることなくユネスコ精神を理解し、退会することなく楽しく活動に参加していただくことでした。

＊4月16日　令和4年度桐生ユ協総会は殆どの会員にとって初めてのことで、数字の羅列だけの決算報告では出席率が低いかもしれないと、総会後、会員の金子勇人氏にシンセサイザーの演奏をお願いし、その席でウクライナへの緊急募金を実施して43,000円のカンパを日ユ協連に送金しました。

＊5月22日　近年何よりも大きなイベントは、県ユ連の総会を当桐生で開催できたことでした。ここで、まだ生まれたての新会員たちが活き活きと連帯感を持って準備を進めてくれたことは大きな成果でした。

＊6月5日　2019年2月にアフガンで暗殺された中村哲氏と同じように村民を救うボランティア活動をされている、オーケーバジこと垣見一雅氏が3年ぶりにネパールより帰国し、桐生ユネスコでの貴重な講演の後、会場でカンパを募り、45,000円の浄財を寄贈しました。

＊11月6日　群馬大学構内で、桐生ユ協副会長の前原勝良氏が中心になって開催しているクラシックカーフェスティバル(約2万人来場)での子どものお絵かきコンテストに11名のユネスコ会員がローターアクトと共同で表彰式までお手伝いを実施しました。

＊11月11日　平安文学を専攻する群馬大学教授、藤本宗利氏による「源氏物語　装束の心象～直衣と狩衣」をテーマに講演会を実施。専門知識と巧みな話術で会場を魅了し、ユネスコの文化活動として非常に楽しく有意義な会となりました。

▲群大教授　藤本宗利氏

上記、令和4年度の約8か月の活動状況です。この間に、理事会や各イベントの打ち合わせ等の活動がありましたが、桐生ユ協にとり何よりも痛恨の極みが、今後一番頼りにしていた副会長のＦ医師の突然の逝去でした。また、反省点として、書きそんじハガキ回収事業がコロナ禍による活動の休止のため、そのチャンスを逸してしまった事です。まだまだ実際は1年生だと反省しました。“継続は力なり”と申します。今後、しっかりとした組織作りに努力して参る所存です。

太田ユネスコ協会

コロナ禍と共に

事務局長　栗田　政子

新型コロナ発生から3年近く過ぎ、周囲でも感染が広がってきている状況では通常の活動も制約されてきました。しかしながら、新しく入会した理事さんたちの為にも、毎月の理事会は消毒や検温、換気などの安全対策に留意して欠かさず開催してきました。毎回熱心に情報交換、ユネスコ活動について討議を重ねてきました。

5月に予定していた定期総会は市長・副市長、市議会議員、各学校の校長・PTA会長、医師会など300名近い会員への連絡の変更や、学校の感染拡大等を考慮して残念ながら書面総会となりました。例年夏休みに開催する、中学生対象のユネスコイングリッシュスクール、小学生対象の国際理解バスも楽しみにしておりましたが中止せざるを得ませんでした。太田市立太田高校生徒会が自主運営する太田市近接高校ユネスコ弁論大会も開催できませんでした。毎年家族総出、大勢の見学者で賑わう諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展は855作品の出品がありましたが、会場での一斉展示は見送り、賞状や賞品を各幼稚園・保育園・学校で授与していただくこととしました。

▲諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展

そんな中、開催を懸念されていた、海外青年交歓研修会は一万人以上、70数カ国の外国人住民がいる外国人集住都市のひとつである当市で、是非実施したい事業でした。市の取組み、在住外国人の現状が窺がえ、外国人青年のスピーチ等、実りある会だったと思います。

これから、書きそんじハガキキャンペーンの時期になります。以前から、世界寺子屋運動には太田ユネスコ協会として募金を送っていましたが、一昨年から、市内の小・中・高等学校に世界寺子屋運動の趣旨を理解いただきハガキの回収をお願いしています。昨年は16校、16万円余の募金を日本ユネスコ協会連盟に送ることができました。今年は学校のみならず、市の公共施設にも書きそんじハガキ回収ボックスの設置を考えています。

前橋ユネスコ協会

子どもたちの文化遺産めぐり

事務局次長　並木　史一

前橋ユネスコ協会では、令和4年11月6日に文化遺産めぐり「わたしたちのまちの古墳探検隊」を開催しました。前橋市総社地区の古墳群などを、小中学生がスタンプラリー形式で回るもので、子どもたちに地元の歴史を楽しみながら学んでもらうことが目的。コロナ禍で県外の国際交流行事が難しい中、地元の歴史や文化財への理解を深める事業を企画し、前橋ユネスコ協会として初の試みでした。

総社地区は、3つの国指定史跡を含む総社古墳群や世界かんがい施設遺産である天狗岩用水があり、歴史豊かな地区です。歩いて回れる距離に点在しているため散策に適し、地域の歴史を展示した総社歴史資料館もあります。

当日は、総社歴史資料館で展示を見学後、同館を発着場所として、4チームに分かれた子どもたちだけで、地図をたよりに、チェックポイントとなる7つの文化財を探検。チェックポイントはどの順で回ってもよく、チームで決めます。また、チェックポイントには各文化財の説明パネルが用意してあり、そこで覚えたことをゴールに戻ってクイズに挑戦しました。なお、サポートメンバーとして、地元の第六中学校生に地区外の子どもたちが散策する手助けをしてもらいました。

古墳の石室は洞窟のようで、懐中電灯を片手に探検。ゴールのクイズでは、4チームとも見事全問正解し、全問正解証をもらって歓声を上げていました。

▲古墳群のスタンプラリー

地元の歴史や文化財への理解を深める事業は、昨年度から役員で実施している文化財めぐりを踏まえ、今回、一般の子どもたちを募集するとともに、ゲーム性を加味してスタンプラリー形式で実施したもの。子どもたちが地域の文化財に触れる良い機会となりました。最後に、参加していただいた皆さん、ご協力いただいた方々に改めてお礼を申し上げます。

伊勢崎ユネスコ協会

コロナ禍と共に

会長　設楽　孝吉

コロナ禍が3年目を迎え、世の中では感染対策の徹底を図りつつ様々な活動を展開していく中で、当協会も5月19日、宮郷公民館を会場に総会を開催しました。総会後の記念講演では、県立伊勢崎興陽高校の生徒を招き、「興陽6次産業化プロジェクト」という題で発表していただきました。6次産業化とは、生産から販売までの全てを生徒が行うもので、野菜作りから値段設定、ラベルのデザイン等を経てピクルスを商品化して販売。大変好評であったと聞いています。発表を通して、プロジェクトに関わった生徒たちの達成感や、充実した学校生活の様子を感じ取ることができました。今後の活動に更に期待したいと思います。

また、8月16日から19日までに、市役所市民ロビーで市子ども会育成会連絡協議会と連携し、3年ぶりに「子ども作品展」を開催しました。習字、絵画、工作等の出品数は472点、参観者は512人でした。この作品展は、市内児童生徒の作品交流だけでなく、子ども会活動の文化的事業の役割も果たしています。今後も継続していきたいと考えております。

10月1日には、県ユ連協主催事業「世界遺産研修会 in 伊勢崎」を境島村公民館を主会場として開催しました。前半は、境島村登録文化財活用推進協議会長の田島達行様から「島村は利根川の賜物」という題でご講演いただきました。後半は、田島弥平旧宅周辺にある国登録有形文化財の蚕種製造民家を、特別に公開していただき、見学しました。好天に恵まれ、有意義な研修会となりました。

今後は、新春会員の集い、書きそんじハガキ・キャンペーン、ユネスコ新聞55号の発行等に取り組んでいきます。まだまだコロナは終息しそうにありませんが、会員との連携を図り、進めていきたいと思います。

▲田島家住宅

高崎ユネスコ協会

きめ細かな対応で新たな試みにトライ

会長　串田　昭光

今年度は、役員改選年度でしたので、3年目を迎えたコロナ禍ではありましたが規模を縮小し2年ぶりに対面通常総会を開催しました。すべての議事にご賛同、ご支持やご理解を頂きましたことなによりでありました。活動基軸は、平和を願う国際感覚を身につけた青少年の健全育成、延いては、「持続可能な社会の実現に向けた担い手を育むこと」「持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献すること」にあります。

役員一同は、喫緊の取組であるウクライナ支援を通しユネスコ理念の世界平和の具体化等にきめ細かに対応することに、意を新たにした次第であります。

活動は、下記によります。

1、新たな取組

(1)幼稚園の会員増

幼少期からSDGsに向けた体験を通しユネスコの精神や平和の心を育むこと、成長して組織の若い担い手となる可能性と組織が広がることを願い積極的な啓発を開始しました。今年度2園の入会があり6園になりました。

(2)「プロジェクト未来遺産2022」の推薦

目的の概要は、日本各地にある文化や自然などを100年後の子どもたちに伝えていくことです。高ユ協は、「みのわの里のきつねの嫁入り」実行委員会(岡本優子委員長・佐藤孝夫事務局長)の応募を受け、世界遺産委員会を中心に推薦書を作成し、8月末に日ユ協連未来遺産事務局に提出しました。

(3)賛助団体等表敬訪問・インタビュー

高ユ協を長年ご支援くださっている団体等への感謝の意を込め表敬訪問し、インタビューしました。高崎北ロータリークラブ(堤謙治会長)、高崎ロータリークラブ(桂川修一会長)を伺い、歴史や活動の様子をお聞きすることができました。そうした情報を共有すること、絆をさらに強くしたこと等をお伝えするためシリーズ掲載を開始しました。

2、2年目の取組

国際理解展示会(国際理解バス代替事業・日ユ協連助成)は、会員が海外で体験したことを伝えることや日常活動で培ったユネスコ力の発揮を楽しむこと等が趣旨です。そのテーマ「Peace for Tomorrow(広げよう平和の心)」が、小中学生や市民に浸透し参加者が72名と大幅に増えたことや群馬テレビで放映されたことは会員の励みとなりました。

上野三碑巡り(青少年キャンプ代替事業)は、残念ながら昨年に続き応募者足らずで中止となりました。

3、既存の取組

▼国際児童画展

国際児童画展は、50回目を迎え記念すべき事業となりました。高崎経済大学・高崎商科大学各6名、本庄東高校1名のボランテイア参加や目黒ユネスコ協会の支援でウクライナ・ポーランドの子どもの作品を展示することができました。

第50回ユネスコ作文コンクール応募は、ウクライナ侵攻に関する作品が多くありました。児童生徒が世界の動きを敏感にとらえていることが読み取れました。

富岡ユネスコ協会

ポストコロナの時代

会長　矢野　英司

新型コロナウイルスの発生から約4年を迎えても、今なお、私たちの生活や健康に影響を与えています。ウイルスが完全に無くなることはないとすると、ウイルスと人類とが共存していく考えや、欧米諸国のように一定の感染状況においても社会経済を動かしていく方向も見据えた対策に舵を切っていかなくてはならないのかもしれません。

当協会の本年度の活動ではコロナ禍で、活動の多くが対面を前提とした活動となるため制限されてしまい、企画していた事業などが中止を余儀なくされました。しかし、対面でない事業活動として毎年開催させていただいている「ユネスコ活動普及啓発作文」の募集を行いました。市内5・6年生及び中学生を対象にさせていただきユネスコ活動の一層の普及と啓発を図るための事業としています。市内多くの児童生徒から提出された作文を拝見すると、ユネスコについて調べたことや、国際平和、人類共通の福祉、などなどのテーマをもとに自分の考えでまとめ表現できていてとても良い作品ばかりでした。今後もこの活動は続け、当協会の大切な事業として継承していきたいと思います。

▲ユネスコ活動普及啓発作文表彰式

終わりに、ユネスコ協会の活動は、一人一人の力は小さいものかもしれません。しかし、UNESCOの名のもと力を合わせれば、その小さな力も想像を超えるほどの大きな力になるものと信じています。これからも本協会の活動に対しまして、温かいご支援ご協力をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

▲碓氷製糸場特別見学ツアー

沼田ユネスコ協会

沼田ユネスコ協会創立50周年を振り返って

副会長兼事務局長　大島　俊夫

沼田ユネスコ協会は昭和46年創立以来50周年を迎え、記念事業実行委員会を中心に2年間準備を重ね、記念誌を発刊し、10月15日に市内のホテルベラヴィータを会場に50周年記念式典を挙行いたしました。当日は沼田市長様始め多くのご来賓の方々、岸正博県ユ連会長様、県内各ユ協の役員さん、沼田ユ協の関係者等80名以上の参加をいただきました。開式に先立ち、同じく50周年を迎える沼田ユネスコ少年少女合唱団の子どもたちの綺麗な、爽やかな合唱を聴いていただき、続いて最近10年間の沼田ユ協「平和の鐘を鳴らそう」「国際理解バス」「研修視察」「世界寺子屋運動」「SDGs/ESDユネスコスクール活動の支援」などの活動の様子をスライドショーで見ていただきました。

▲沼田ユ協少年少女合唱団

開式後、主催者挨拶で石田会長が「ユネスコ憲章の理念の下、地域の学校や人々との結びつきをさらに深め、地道な活動を続けていきたい」と決意を述べ、ユネスコスクールの利根実業高校をはじめ同協会の事業に取り組む9人と19団体を表彰しました。続いて沼田市長様、議長様、県議様、岸県ユ連会長様等の心温まる励ましのお言葉をお聞きし、改めて県ユ連・日ユ協連との連携を図り、沼田ユ協60周年、70周年を目指して、着実な実践を積み重ねていく決意を固くしたところです。

式典後には、上之町の大正ロマンの街見学会も行われ、生方記念文庫・旧沼田貯蓄銀行・旧土岐家住宅洋館・旧日本基督教団沼田教会紀念会堂などを案内させていただきました。今回の記念式典実施に当たり、コロナ禍のもとでホテルベラヴィータのスタッフの皆様にも、ご参加の皆様にも、感染予防にきめ細かな配慮をしていただき無事に終了することができました。大変ありがとうございました。

館林ユネスコ協会

「今年の活動報告」

会長　大野　泰弘

今年の館林ユネスコ協会の活動について、紹介します。

当協会では、書きそんじハガキの回収キャンペーンを、ユネスコ活動を紹介する一環として実施しました。市内の幼稚園や保育園、小中学校、公民館などに回収を依頼しました。毎年多くのハガキの回収ができていますので、引き続き積極的に実施していきます。

7月27日には市内の小学4～6年生を対象にした、ユネスコサマースクールを3年ぶりに実施しました。ロシアのウクライナ軍事侵攻を受け、研修先を埼玉ピースミュージアム(平和資料館)にし、平和学習の機会にしました。参加児童・会員・事務局の計約30名で訪ね、アニメ映画「さいごの空襲くまがや」を鑑賞したり、国民学校教室(戦時の小学校の授業を再現したもの)・防空壕体験をしたりしました。今年は、参加児童に感想文を書いてもらい、学習の振り返りの時間とし、学びを深めてもらいました。提出してもらった感想文を読みますと、一人ひとりが「平和とは何か」という問いに真剣に向き合う機会となったようです。この経験を活かして、平和な社会の発展に寄与してくださることを期待しています。「また参加したい」という声があり、活動の励みになりました。

他には市内で開催されるイベントに参加しています。今年は、7月28日の「平和のためのパネル展」、10月10日の「ふるさとづくり市民フェスティバル」に参加しました。ユネスコサマースクールの写真や感想文、群馬県の世界遺産のパネルを展示し、ユネスコの活動を周知しています。市内への発信を通して、多くの方にユネスコの活動を知ってもらい、気軽に活動に参加できるよう広報活動の充実に努めています。

▲ユネスコサマースクール

安中碓氷ユネスコ協会

ウクライナ緊急募金・ユネスコ座談会

会長　矢野　薫

昨年2月、突如としてロシア軍によるウクライナ侵攻が始まりました。ロシア軍による攻撃は日を追うごとに激しさを増し、軍人はもとより、子どもを含む多くの一般人の方々が犠牲になりました。そして、ロシア軍による戦禍を逃れようと、多くの人々が、ウクライナ隣国のルーマニアやポーランドに避難し難民状態となりました。3月上旬、「ウクライナを支援し、ロシアの侵攻を止めなければ!」と当協会は募金活動にいち早く立ち上がりました。日本ユネスコ協会連盟に国内の募金の取りまとめを依頼するとともに、3月16日、安中市内5カ所の公共施設で募金活動を開始しました。

▲街頭募金活動

ロシア軍の攻撃は日増しに激しくなり、G7(先進7か国)首脳会議によりロシアに対する経済制裁など、周辺国で次々と対策が講じられましたが、侵攻は止まらず避難民の数は増加するばかりです。募金活動を加速させようと、3月27日と4月10日、市内スーパーマーケットで、街頭募金活動を実施しました。そして、4月12日、これまでの募金388,560円を、日本ユネスコ協会連盟に送金しました。その後、7月末まで募金活動を続け、最終的に531,158円を日本ユネスコ協会連盟に送金しました。募金活動に、ご協力いただきました多くの方々に心より御礼申し上げます。

さて、コロナ禍の影響で3年間にわたり開催出来なかったユネスコ座談会を10月22日3年ぶりに松井田庁舎で開催しました。

テーマを「SDGsの達成に向けて2030年までに、私ができること・やらなければならないこと!」とし、市内の中学、高校の生徒会役員やインターアクト部員及び高崎経済大学学生、安中ロータリークラブ会員等の約50名の参加を得て開催しました。

群馬県ユネスコ連絡協議会会長の岸正博氏を講師に迎え「SDGs時代に求められるもの」の演題で1時間にわたり講演が行われました。講演に引き続き、参加生徒による意見発表、最後に岩井均安中市長から参加者へ激励の言葉が送られました。

生徒たちは「SDGsの達成に向けてアクションを起したい」「学校でSDGs宣言をする」「SDGsの達成に向けて皆に呼びかけたい」等の決意表明をしました。

岩井市長からは「SDGsの達成は次世代を担う中高生の君たちの取組にかかっている。各校でリーダーシップを発揮し、SDGsの達成に向けて全力で頑張っていただきたい。」と力強いメッセージが送られました。

参加者から発表された意見は、メッセージとして11月17日～20日に安中体育館で行われた市民展で掲示するとともに安中碓氷ユネスコ便り(機関紙)で市民に向けて公開しました。

藤岡地方ユネスコ協会

平和への祈り

会長　岸　正博

「平和への祈り」をテーマとした「平山郁夫版画展」を2022年5月27日(金)～30日(月)の4日間、藤岡市みかぼみらい館ギャラリーで開催。ほるぷA&I社の協力を得て、「パルミラ遺跡を行く」など45点の版画、工藝画作品、同時開催として、東山魁夷・中島千波他の日本美術の名作も紹介した。

▲平山郁夫版画展　テープカット

UNESCO親善大使、鎌倉ユネスコ協会初代会長であった平山郁夫氏は、戦後の美術史に大きな足跡を残している。日本文化の源流を求めてシルクロードを歩き、仏教伝来の道、東西文化交流の道を訪ねた。作品の「ラクダのキャラバン」は、平和のシンボルといえる。シルクロードで運ばれたのは、物資だけでなく、思想や人の心、宗教や文化もラクダの背の荷物とともに伝わった。いまだなお戦火の続くウクライナの状況見るにつけ、平和だからこそ人々が自由に行き交うことができるということを実感として感じる。

▲平山郁夫版画展　会場

平山郁夫氏は「私の描いた絵が『世界遺産非武装地帯』の輪を広げ、世界平和を実現するためにお役に立てれば幸い」という。

開催期間中の来場者は、延べ1,154名となり、市内はもちろん、県外からも多くの方々が足を運んでくれた。会場にウクライナ難民支援の募金箱を置いたところ、たくさんの方々に協力いただき、学校、企業、会員からの募金と合わせ、95万2,363円を日本ユネスコ協会連盟、ルーマニアのユネスコ協会センタークラブを通してウクライナ難民支援にあてることができた。

「平和を祈る作品を残したい」という氏の作品はいまウクライナの平和への祈りとも重なる。会期当日は予約販売も行われ、チャリテイー収益金は、震災被害子ども支援、並びに、ユネスコ合唱団とオーケストラの音楽活動にあて、文化の発信を進めたい。

中之条ユネスコ協会

「民話」を子どもたちに

会長　嶌村　真也

中之条ユネスコ協会は、新たな事業として子どもたちに地域の昔話や伝説を伝える「民話教室」を開始した。

今年度は、試行的に学期2回(3学期を除く)、中之条小学校の3年生を対象に、授業前の朝の読書時間を使って、「語り部」が中之条町六合地区に伝わる民話を車座の子どもたちに語り聞かせる。

本事業のねらいは、三つある。

第一は、六合の山間地区に古くから伝承されてきた「民話」の温かさや素朴な味わいを、デジタルの現代社会に生きる子どもたちに感じ取ってもらうこと。

第二は、「六合の文化を守る会」が続けてきた囲炉裏端の「民話語り」の伝統的な民俗文化を、ユネスコの未来遺産として普及・啓発・継承の支援とすること。

第三は、本事業をユネスコ活動の実績として、当協会の組織の活性化と会員増につなげること。

本事業は、「六合の文化を守る会」の子どもたちへの民話紹介への期待と中之条ユネスコ協会の学校へのつながりへの願いが一致し、守る会・ユネスコ協会・学校の三者が調整を重ねて実現した。

▲民話教室

6月24日(金)、最初の「民話教室」。中之条小学校の多目的教室で、3年生の子どもたちを前に浅井広之校長先生による「民話教室」と語り部4人の紹介を経て、各教室に分かれて始まった。進行はユネスコ協会員。子どもたちにとっては初めての体験で、興味津々で「語り部」の話す民話に聞き入っていた。

10月27日(木)、第4回目の「民話教室」。語り部の各学級一巡を機に、これまでの評価と今後の計画の打ち合わせが行われた。子どもたちの楽しみとなり、学級担任からも高い評価で今後の継続が期待された。

高齢の語り部の限界と遠距離の早朝活動という制約の中でも、継続する意味と価値のある活動となった。

大泉ユネスコ協会

コロナ禍3年目「創意と工夫」で活動スタート

副会長　槻岡　則夫

今年度、コロナ禍3年目の活動は感染対策を講じて3年振りに定期総会を開催し心新たに始動しました。

事業開催の是非は全体の感染状況や事業内容の感染リスクの有無を考慮し創意と工夫を加え開催が可能かどうか熟慮し決定します。

7月「民間ユネスコ運動の日」記念事業は3年振りに『マンドリン演奏会』を開催。約60名の参加者が美しく奏でるマンドリン演奏を楽しむ事が出来ました。特に、中高年層に思い出深い「太陽がいっぱい」や「名月赤城山」などの曲目に皆堪能された模様です。外の猛暑を忘れ、午後の一時を心癒され楽しむ事ができました。

▲マンドリン演奏会

8月は「国際理解バス研修会」を計画し熟慮検討した結果、参加対象が中学生であり学校側の意向も考慮し中止とし、前年同様に国際理解に役立ちそうな取組として、国際理解に係る冊子をまとめて、各中学校に配布しました。

9月は3年ぶりに「会員研修視察旅行」を感染対策を講じて、参加者30名で開催しました。新潟県の「おぢや震災ミュージアム・そなえ館」では目を覆いたくなるような映像や写真などに触れ、震災の恐ろしさを体感し「そなえ」の必要性を再認識できました。

次に西福寺・開山堂の拝観と見学。堂内の彫刻、絵画、漆喰細工に参加者は圧倒された模様。感染対策に御協力いただいた参加者の皆様に感謝申し上げます。

10月「高校生意見発表会」を開催。町内中学校を巡回で開催し、通常は体育館に全生徒及び教職員の皆様に集合していただき、町内各高等学校の代表者の発表を聴講する形式ですが、密を避ける為に今年も学校の放送室で高校生は発表し、中学生及び教職員の皆様は各教室で放送を通じて発表を聴いてもらう事と致しました。

今年で3年目、体育館で学校関係者が集い、高校生の将来の思いなど臨場感漂う発表を聴きました。アトラクションでの高等学校吹奏楽部による演奏は場を盛り上げてくれます。是非、次年度は通常通りの発表会が開催できる事を願っております。

今年度上半期は3年振りに開催できた事業が複数あり、下半期も計画した事業を創意と工夫を駆使し開催できるよう努めて参ります。

国際ソロプチミスト前橋

認証45周年を迎えて

会長　森田　光子

国際ソロプチミストは国連の経済社会理事会（ECOSOC）の総合協議資格を持つ数少ない女性のNGOであり、世界と地域で女性と女児の生活を向上させるために活動している女性による奉仕団体です。

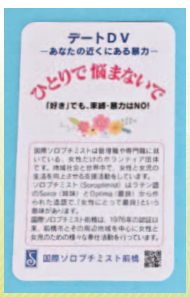
ソロプチミストという名称はラテン語のSoror（姉妹）とOptima（最良）からの造語で、女性のために最良（Best for Women）を意味しています。

国際ソロプチミスト前橋は、1946年12月に群馬県で最初のソロプチミストクラブとして認証されて以来、様々な奉仕活動に取り組んでいます。2021年7月～2022年6月期は認証45周年に当たる節目の年度となり、41周年～45周年を網羅する45周年記念誌を作成しました。後半の3年間はコロナウイルス感染症の影響により活動にも制約がある中、感染防止に心掛け、オンラインを活用するなど、力を合わせて新しい試みにも取り組みました。

地域において知名度を高め、奉仕活動の資金を得るための歳入事業は、私たちの活動の中でも重要な役割を持っています。6月21日には数年ぶりのチャリティーコンサートを実施しました。感染対策を施した上で津軽三味線の演奏を楽しみ、集まった浄財は「愛の募金」やウクライナ避難民支援募金への寄付に充てることができました。

▲津軽三味線チャリティーコンサート

継続事業である高校生へのデートDV防止啓発活動では、地域内10校の1年生約3,000人にカードを配布しました。デートDVへの関心と正しい知識をもってもらい、自身が被害に逢わないのはもちろん周囲の人への配慮を持てる人になってほしい―大きな願いを込めた小さなカードです。



▲デートDV防止啓発活動

祝

沼田ユネスコ協会

創立50周年おめでとうございます

沼田ユネスコ協会の創立50周年記念式典が2022年10月15日（土）14：00より、ホテルベラヴィータにて、市長をはじめ多くの来賓を迎え、挙行されました。

祝

社会教育功労者表彰受賞

樋口　克己　前会長

2022年11月19日、令和4年度群馬県社会教育研究大会において、県ユ連前会長、樋口克己氏（高崎ユネスコ協会）が「社会教育功労者群馬県教育委員会表彰」を受賞しました。

祝

日本ユネスコ協会連盟 2021年度グッドプラクティス賞受賞

群馬県ユネスコ連絡協議会国際理解バス事業

「ユネスコ精神の育成とともに、異文化との交流を通して、子供たちを視野の広い国際人に育てる」ことを目的とし、それぞれの協会の独立した事業でありながら40年以上継続し、共通の課題に取り組んでいることについて、受賞となりました。

今後の県ユ連主催事業

■ 第8回群馬県ユネスコスクール研修会（兼第11回藤岡市ユネスコスクール研修会）

日時：2023年1月31日（火）13：20～16：40
会場：藤岡公民館3階大会議室
日程：Ⅰ部　講演
演題：「これからのユネスコスクールの展開と拡充にむけて～『国連・ESDの10年』の経験を活かし、SDGsの本質に対応する～」
講師：佐藤　真久様
（東京都市大学大学院環境情報学研究科教授）
Ⅱ部　SDGs活動報告・現状と課題
・「ユネスコスクールとしての新島学園の実践」
新島学園高等学校2年インターアクト部部長
岩橋　柚月様
・「鐵建SDGs～今できることから始めよう～」
株式会社鐵建　経営企画室　西山　裕美様

特集 SDGs

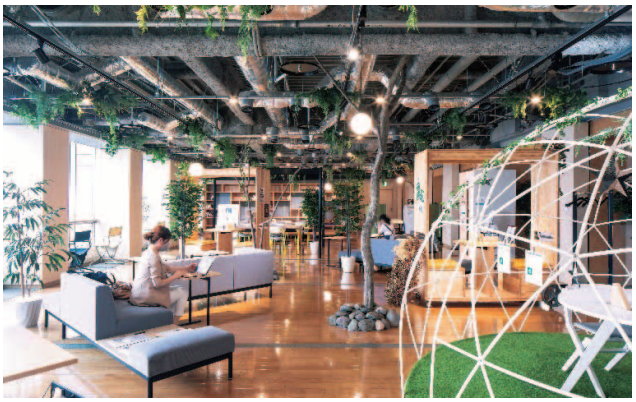
群馬県における SDGsの取組

SDGs（持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール及び169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

群馬県では、このSDGsの理念を大いに取り入れた、「新・群馬県総合計画（ビジョン）」を2020年12月に策定し、2040年の県の目指す姿を「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型社会」としています。

また、SDGsの推進にあたっては、経済、社会、環境の三側面の課題を官民が連携して解決し、持続可能でほかにはない価値を持つ「快疎（かいそ）」（※1）な群馬の実現に向けて取り組んでいます。

※1「快疎」とは、ゆとりある生活空間が安全・安心のベースとなり、ほかにはない価値を持ち、人々を惹き付ける求心力を持つ空間、地域のことを指します。



▲ NETSUGEN

現在は、県庁舎32階の官民共創スペース「NETSUGEN」（ネツゲン）の活用や市町村等と連携して行う「官民共創コミュニティ」の育成により、群馬の土壌とデジタルを掛け合わせた新たな価値の創出や地域の課題解決を目指しています。

さらに、「官民共創コミュニティ」が成長することで、「始動人」を育成し、その「始動人」（※2）が様々な分野で活躍するとともに、「官民共創コミュニティ」の中核になっていく、こうした好循環を作り上げることで、群馬の魅力を高め、新たな価値や富の創出につながっていくと考えています。

※2「始動人」とは、自分の頭で未来を考え、他人が目指さない領域で動き出し、生き抜く力を持った人のことを指します。

この様な取組が評価され、2021年5月に、県は、SDGsの達成に貢献する優れた取組を行う自治体として、国から「SDGs未来都市」に選定されました。

県では、そのほかにも、産業分野におけるSDGsを推進する「ぐんまSDGs推進ネットワーク」やハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を加速させる「災害レジリエンスNo.1」の実現、温室効果ガス排出量や食品ロスゼロなどを目指す「ぐんま5つのゼロ宣言」、必要な医療が持続的に切れ目なく提供される医療体制の構築、ジェンダー平等の実現による女性参画の拡大など、様々な取組を行っています。

SDGsや「新・群馬県総合計画（ビジョン）」の達成は、県の力だけで実現できるものではありません。みなさまとともに、取組をすすめていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

群馬県　知事戦略部　戦略企画課
総合計画・EBPM推進室長　佐嶋　洋子

訃報　謹んでお悔やみ申し上げます

群馬県ユネスコ連絡協議会理事
太田ユネスコ協会事務局長
栗田　政子　氏
2022年12月10日に74歳にてご逝去されました。

群馬県ユネスコ連絡協議会副会長
伊勢崎ユネスコ協会会長
設楽　孝吉　氏
2022年12月12日に75歳にてご逝去されました。

なお、2022年12月14日に行われた栗田政子氏お別れの会、12月16日に行われた設楽孝吉氏告別式に際し、県ユ連として弔電と生花を供し、代表者参列にて弔意を表しました。

あとがき

令和4年度は新型コロナの流行とウクライナのロシアによる侵略で明け暮れました。多くの人が集まる集会も制限されるなか、徐々に緩和され、我がユネスコ協会も行事が実施できるようになりました。SDGsの取組や、ユネスコ世界寺子屋運動のキャンペーンなど、広がりを見せてきました。一般の社会の中にユネスコ活動、特に広報活動に力を入れ、ユネスコ活動を根付かせていきたいと考えています。

（編集委員長　依田　治雄）

あけまして
おめでとう
ございます

2023年 新年賀詞ご芳名

群馬県ユネスコ連絡協議会

会長　岸　正博
副会長　中村　利光
副会長　串田　昭光
副会長　田中　一枝
事務局長　依田　治雄
他役員・理事一同

桐生ユネスコ協会

名誉会長　北川紘一郎
会長　田中　一枝
副会長　下山　進平
副会長　前原　勝良
副会長　竹内　靖博
副会長兼事務局長
高柳　光雄

太田ユネスコ協会

会長　中村　利光
副会長　馬場　敏生
副会長　堀越　晋
副会長　菊池　直樹
副会長　小沼　俊吉
副会長　金谷　光明
副会長　津布子寿夫

前橋ユネスコ協会

顧問　阿久澤和夫
会長　矢島　俊夫
副会長　須藤　英雄
副会長　福島　輝己
副会長　関根　長之
副会長　高島　美幸
副会長　宮川　孝子
副会長　中村　丙午
事務局長　樺澤富美男

伊勢崎ユネスコ協会

副会長　矢内三四夘
副会長　横澤　克明
副会長　齋藤　文江
副会長　坂田　勝美

高崎ユネスコ協会

会長　串田　昭光
副会長　上田　一美
副会長　渡部　孝男
副会長　清水　哲夫
副会長兼事務局長
山﨑　貞幸
事務局次長・国内委員
松本千恵子

富岡ユネスコ協会

会長　矢野　英司
事務局長　島﨑　佳彦

沼田ユネスコ協会

名誉会長　小林　照夫
会長　石田　宇平
副会長　宇敷　和也
副会長　矢嶋　照久
副会長　森田　経代
副会長　村澤　玲子
副会長　原澤　直久
副会長　小野瀬和男
副会長兼事務局長
大島　俊夫

館林ユネスコ協会

顧問　蛭間　享一
会長　大野　泰弘

安中碓氷ユネスコ協会

会長　矢野　薫
副会長　矢野　篤
副会長　瀧田　和則
副会長　儘田　尚実
副会長　瀬山　善郎
副会長　小林　克行
事務局長　小日向和博

藤岡地方ユネスコ協会

会長　岸　正博
副会長　依田　治雄
副会長　新井　松江
副会長　平居　利朗
副会長　西澤　恭順
副会長　高橋　博
事務局長　岩﨑　哲
事務局次長　木村　順子

中之条ユネスコ協会

会長　嶌村　真也
副会長　剣持　千秋
副会長　綿貫　光子

大泉ユネスコ協会

会長　寺西　弘之
副会長　槻岡　則夫
副会長　石井　克己
副会長　清水　喜義

国際ソロプチミスト前橋

会長　森田　光子
理事　内田　初枝
日本東リジョンセクレタリー
布川　敏恵

群馬県ユネスコ連絡協議会 加盟団体（設立順）

- 桐生ユネスコ協会
- 太田ユネスコ協会
- 前橋ユネスコ協会
- 伊勢崎ユネスコ協会
- 高崎ユネスコ協会
- 富岡ユネスコ協会
- 沼田ユネスコ協会
- 館林ユネスコ協会
- 安中碓氷ユネスコ協会
- 藤岡地方ユネスコ協会
- 中之条ユネスコ協会
- 大泉ユネスコ協会
- 国際ソロプチミスト前橋

編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者　岸　正博
群馬県前橋市大手町1-1-1
群馬県教育委員会生涯学習課内
TEL：027-226-4668

編集・印刷

株式会社大塚カラー
群馬営業所
群馬県高崎市足門町1637-7
TEL：027-384-3307